

## 京都府立医科大学に寄附講座を開設

- 臓器応答探索医学講座」で臓器不全に対する集約的な治療法確立を -

平成16年12月20日

京都府立医科大学

ノバルティス ファーマ株式会社

京都府立医科大学（学長：井端泰彦<sup>いばたやすひこ</sup>）とノバルティス ファーマ株式会社（代表取締役社長：通筋雅弘<sup>すじまさひろ</sup>）は、平成17年1月1日から京都府立医科大学内に寄附講座「臓器応答探索医学講座」を開設することといたしましたので、お知らせします。

### < 講座の概要 >

- 1 目的 薬物投与や疾患により発生する臓器不全では、薬物そのものの毒性や標的臓器障害に焦点が当てられてきたが、臓器相互の連鎖応答反応については、いまだ十分に解明されていない。そこで、臓器不全時における臓器 - 臓器相関作用、臓器 - 薬物相関作用、生体臓器 - 人工臓器相互作用等を対象に、生体内連鎖反応の病因を解明し、人工臓器開発を含めた治療法の開発を行うことにより、臓器不全に対する集約的な治療法を確立し、医学・医療の発展に資することを目指す。
- 2 名称 臓器応答探索医学講座
- 3 設置場所 京都府立医科大学
- 4 体制 教授 吉村<sup>よしむら</sup> 了<sup>のりお</sup>勇（兼任 現 京都府立医科大学 外科学教室 教授）  
助教授 岡本<sup>おかもと</sup> 雅彦<sup>まさひこ</sup>（専任 現 京都府立医科大学 外科学教室 講師）  
ほかに専任の講師1名を任用する予定。
- 5 期間 5年間（平成17年1月1日～平成21年12月31日）
- 6 寄附金額 1億5,000万円（5年間の総額、1年当たり3,000万円）
- 7 研究内容 臓器不全における生体応答、臓器相関、人工臓器の開発に関する研究

## < ノバルティス ファーマ株式会社の概要 >

設 立：平成9年4月1日

代 表 者：代表取締役社長 通筋雅弘

所 在 地：東京都港区西麻布4-17-30

資 本 金：60億円

売 上 高：2,106億円（平成15年度）

従業員数：3,052名（平成15年第4四半期）

事業内容：医薬品の輸入、製造、販売

移植医療：ノバルティスは1983年、免疫抑制剤「サンディミュン（一般名：シクロスポリン）」を開発・発売。シクロスポリンの登場で世界の移植の成功率は飛躍的に向上し、臓器移植医療は大きく発展した。日本でも1986年にサンディミュン、2000年にはサンディミュンの新たな製剤「ネオーラル」、2001年には腎移植の急性拒絶反応抑制剤「シムレクト」を発売。現在も、数多くの画期的な薬剤が開発段階にある。

一方、学会や移植者協議会等と協力し、移植医療に対する社会的理解を高めるための活動も積極的に行っている。また、一般の方や患者さん、移植者を対象としたさまざまな啓発活動や、移植者のスポーツ大会である「移植者スポーツ大会」や、移植を受けた子どもたちの作品展「Gift of Life」などを支援している。